

4 交際相手からの被害経験

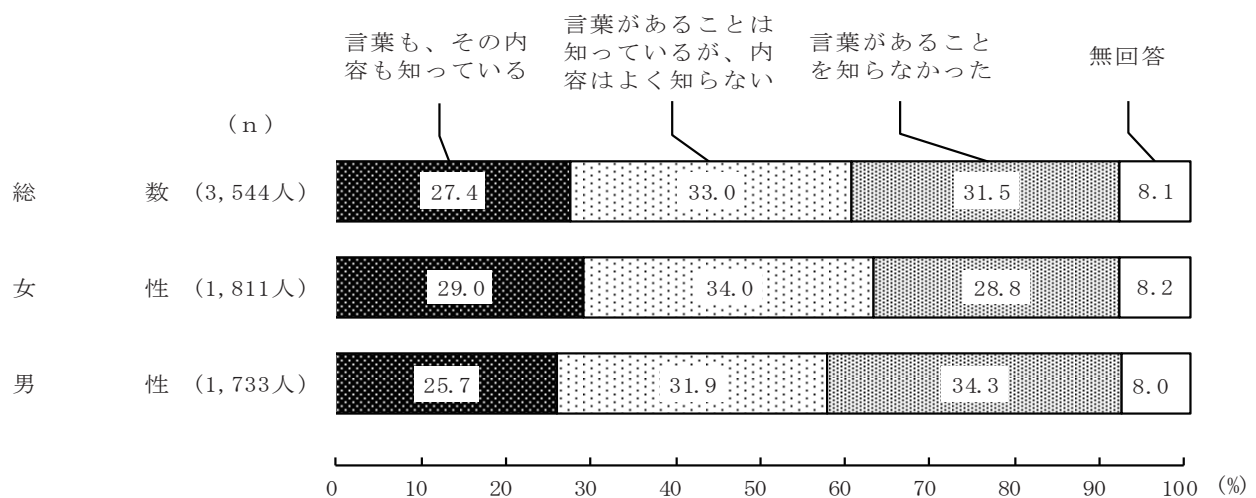
(1) 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度

「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」が27.4%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が33.0%で、これらを合わせると6割を超えている。（図4-1-1）

【すべての方にお聞きします。】

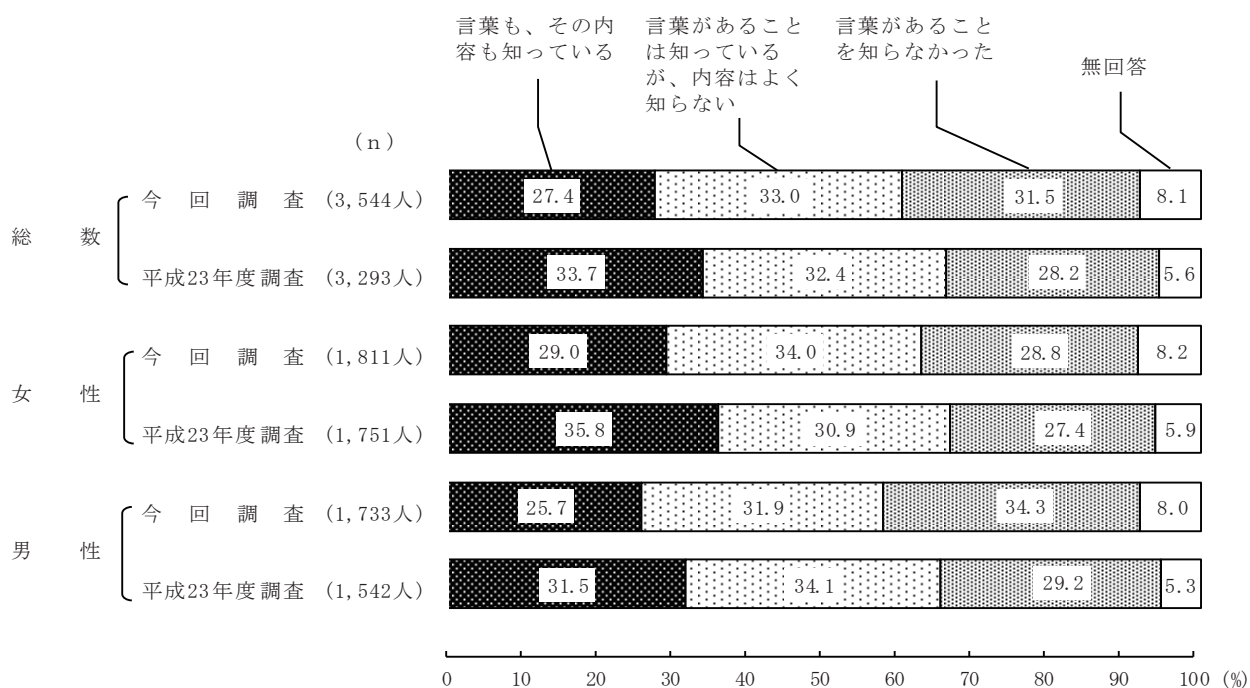
問13 あなたは「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-1-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度



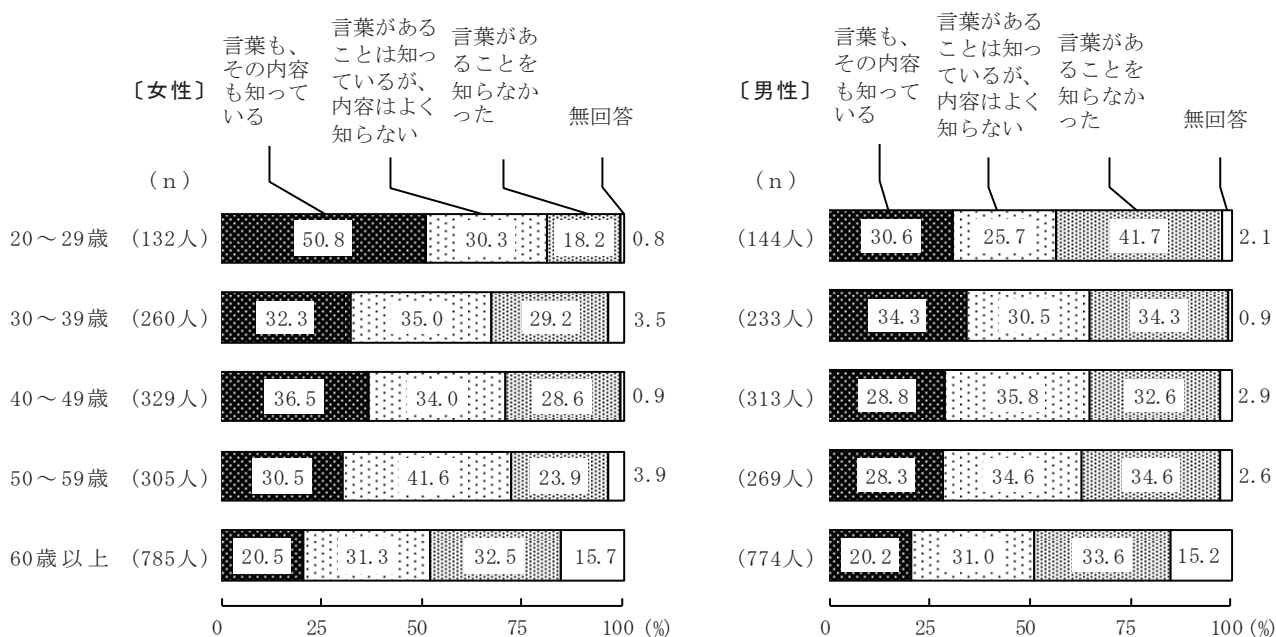
時系列でみると、平成 23 年度調査よりも、認知度がやや低くなっている。(図 4-1-2)

図 4-1-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度 一時系列比較



性・年齢階級別にみると、「交際相手からの暴力（デートDV）」について、「言葉も、その内容を知っている」が20～29歳の女性では半数を超えている。(図 4-1-3)

図 4-1-3 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度（性・年齢階級別）



(2) 交際相手からの被害経験

「交際相手がいた（いる）」という人（1,847人）に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の4つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかをそれぞれの行為について聞き、いずれかについて交際相手から被害を受けたことがある人（「10～20歳代にあった」もしくは「30歳代以上にあった」のいずれかを回答した人の計）をまとめた。

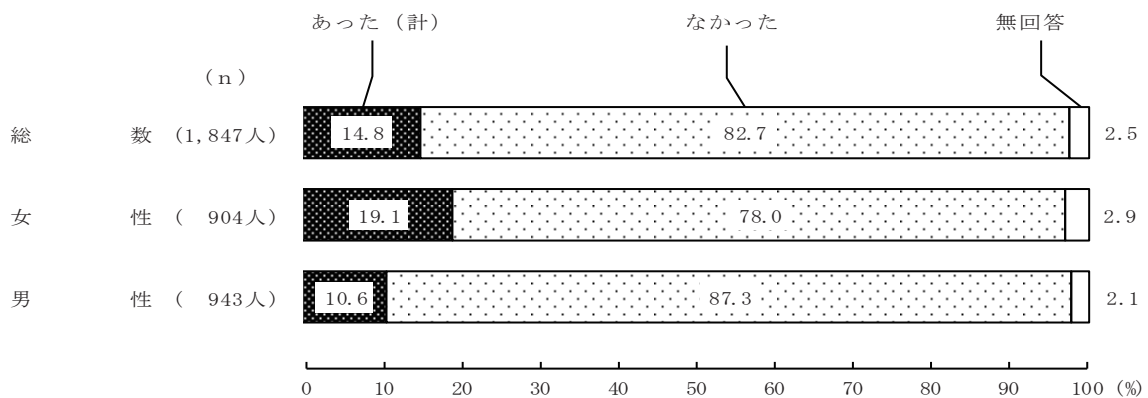
当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のいずれかの被害を受けたことが『あった』が14.8%で、女性が19.1%、男性が10.6%となっている。（図4-2-1）

【交際相手からの暴力被害についてお聞きします。複数の交際相手から暴力を受けた方については、あなたがより深く傷ついた経験の1つについてお答えください。】

問15 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「①交際相手」のA～Dそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。また、「①交際相手」と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がある方は、「②同居の際」のA～Dについてのお答えください。

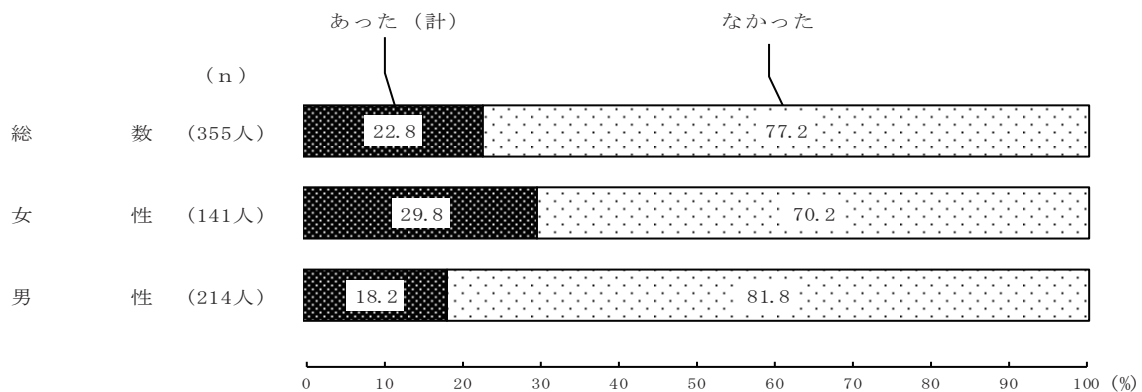
（○はそれぞれいくつでも）

図4-2-1 交際相手からの被害経験の有無（①これまで）



交際相手と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がある人（355人）に、その同居の際の被害経験を聞いたところ、いずれかの被害を受けたことが『あった』が22.8%で、女性が29.8%、男性が18.2%となっている。（図4-2-2）

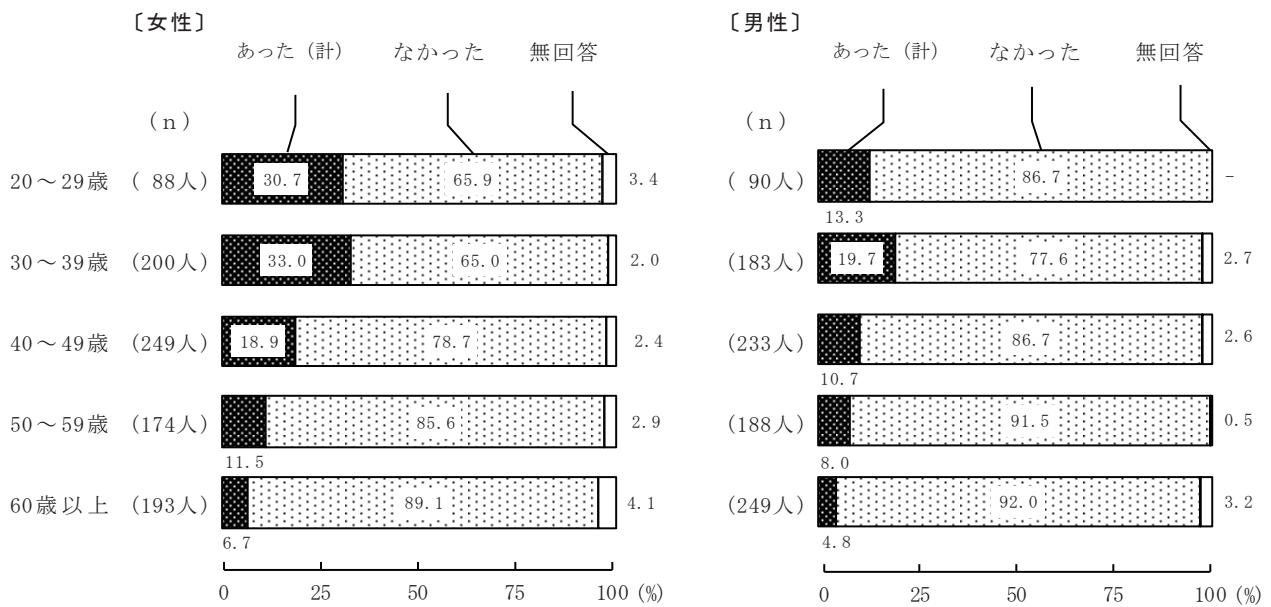
図4-2-2 交際相手からの被害経験の有無（②同居の際）



※「②同居の際」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A“身体的暴行”、B“心理的攻撃”、C“経済的圧迫”、D“性的強要”のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

性・年齢階級別にみると、男女ともに20～29歳と30～39歳で被害経験が多く、特に、女性は3割を超えている（図4-2-3）

図4-2-3 交際相手からの被害経験の有無（性・年齢階級別）



“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のそれぞれをみると、“身体的暴行”が「10～20歳代にあった」が6.0%、「30歳代以上にあった」が1.5%となっている。

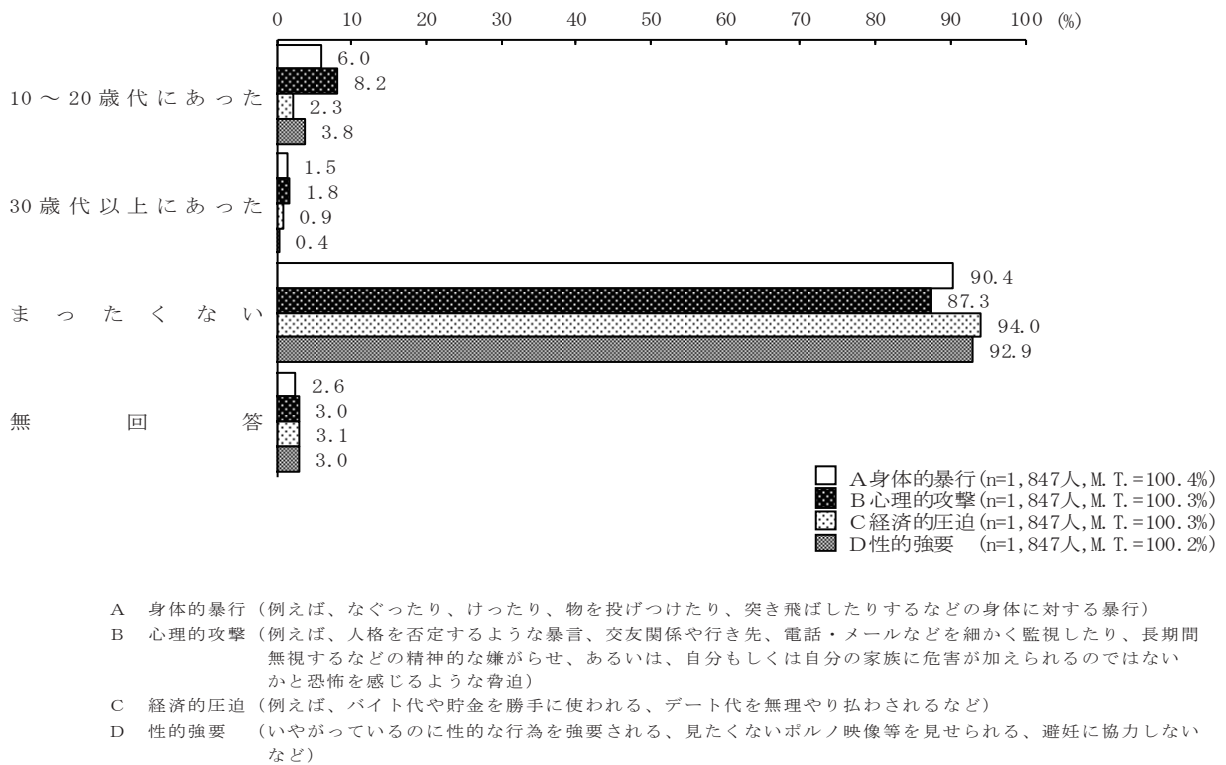
“心理的攻撃”は「10～20歳代にあった」が8.2%、「30歳代以上にあった」が1.8%となっている。

“経済的圧迫”は「10～20歳代にあった」が2.3%、「30歳代以上にあった」が0.9%となっている。

“性的強要”は「10～20歳代にあった」が3.8%、「30歳代以上にあった」が0.4%となっている。

(図 4-2-4)

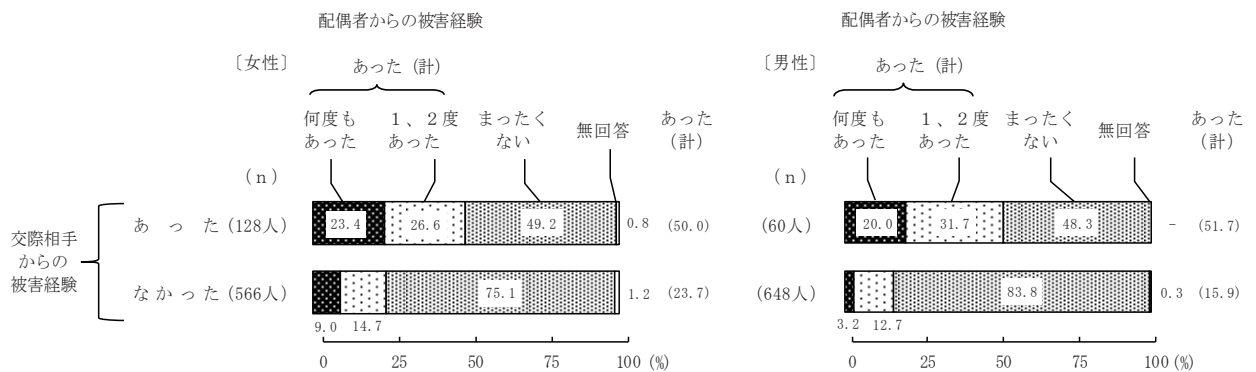
図 4-2-4 交際相手からの被害経験（複数回答）



交際相手からの被害経験の有無別に、配偶者からの被害経験の有無をみると、女性で交際相手からの被害経験がある人(128人)では、配偶者からの被害経験もある人が50.0%となっているのに対し、交際相手からの被害経験のない人(566人)では、配偶者からの被害経験がある人が23.7%となっている。

(図 4-2-5)

図 4-2-5 配偶者からの被害経験の有無（性・交際相手からの被害経験の有無別）



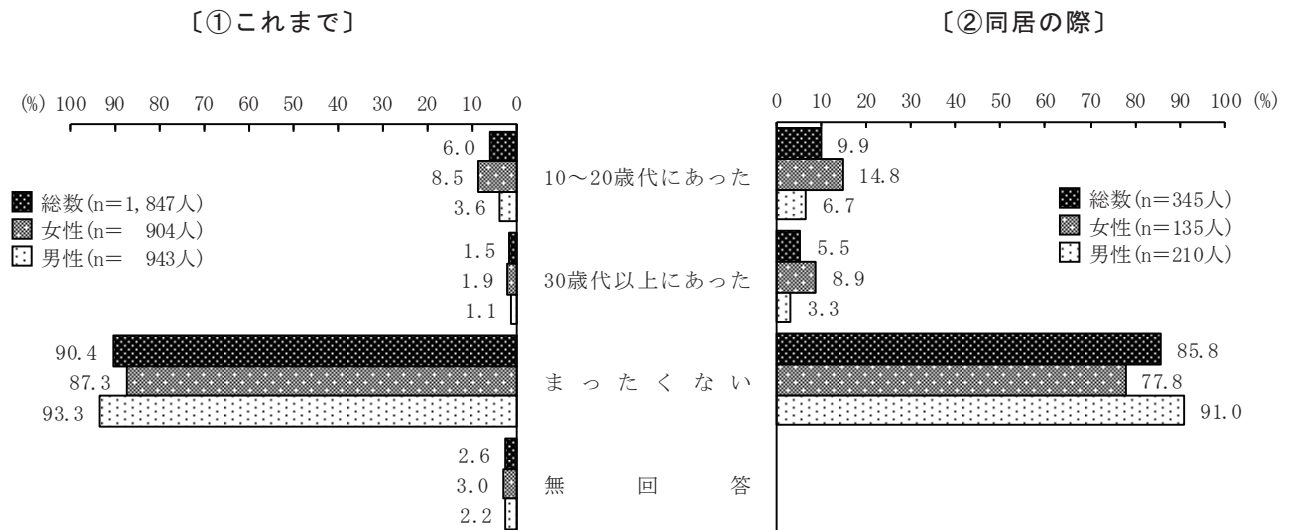
交際相手からの被害経験を男女別にみると、いずれの行為についても男性より女性の方が被害経験のある人がやや多くなっているが、それほど大きな差は見られない。

交際相手との同居の際の被害経験をみると、“身体的暴行”は「10～20歳代にあった」が9.9%、「30歳代以上にあった」が5.5%、「心理的攻撃」は「10～20歳代にあった」が11.1%、「30歳代以上にあった」が6.0%、「経済的圧迫」は「10～20歳代にあった」が6.4%、「30歳代以上にあった」が3.2%、「性的強要」は「10～20歳代にあった」が4.9%、「30歳代以上にあった」が1.5%となっている。

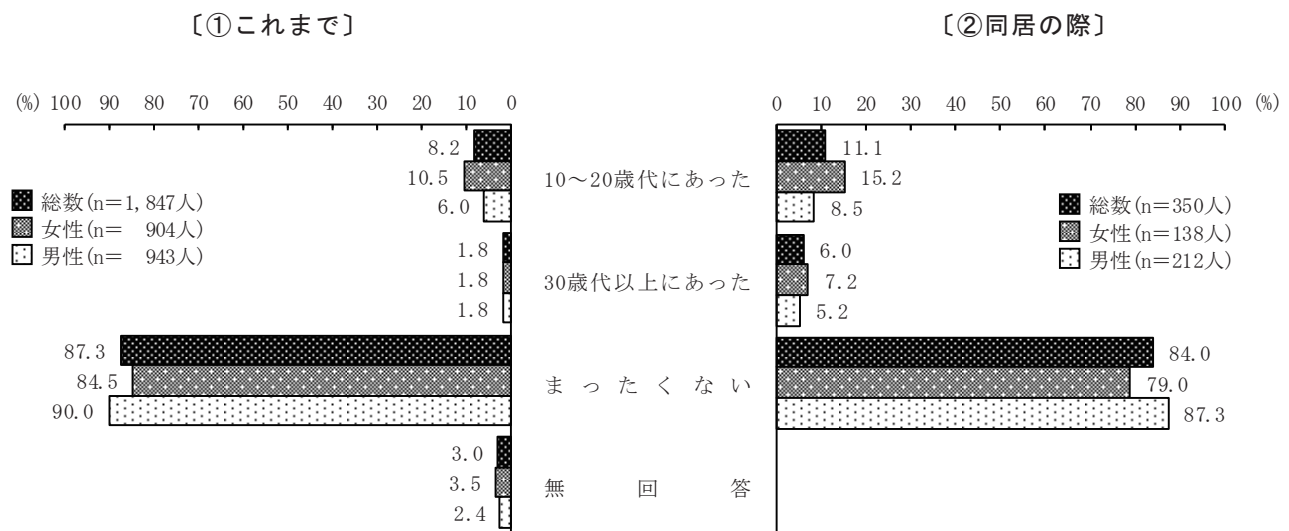
男女別にみると、いずれの行為も男性よりも女性の被害経験が多く、「30歳代以上」よりも「10～20歳代」の方が被害経験が多い。(図4-2-6)

図4-2-6 交際相手からの被害経験(男女別)(複数回答)

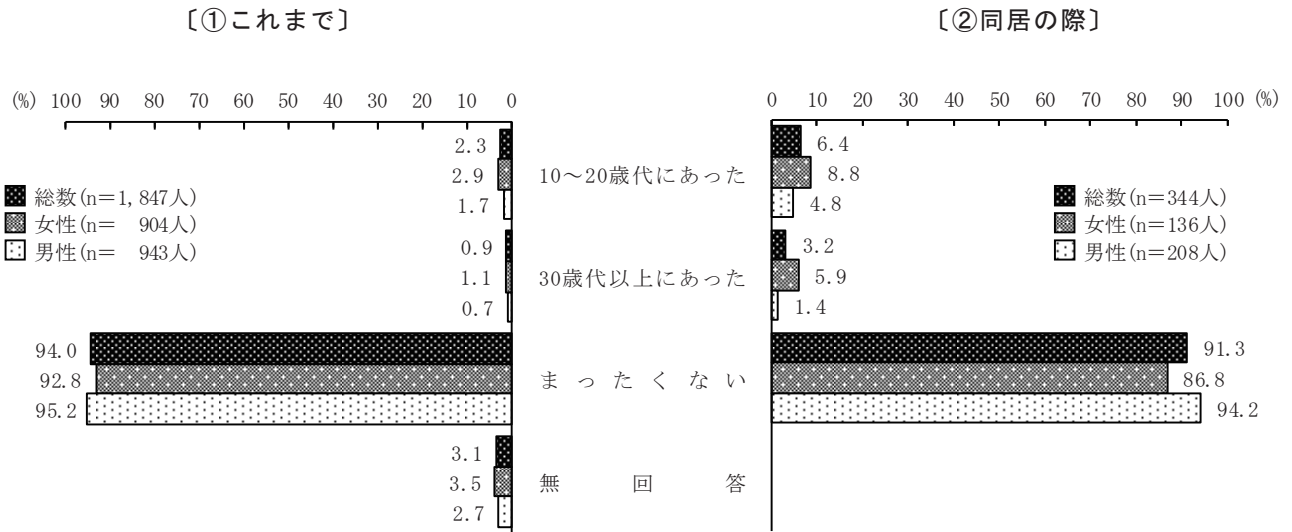
A 身体的暴力



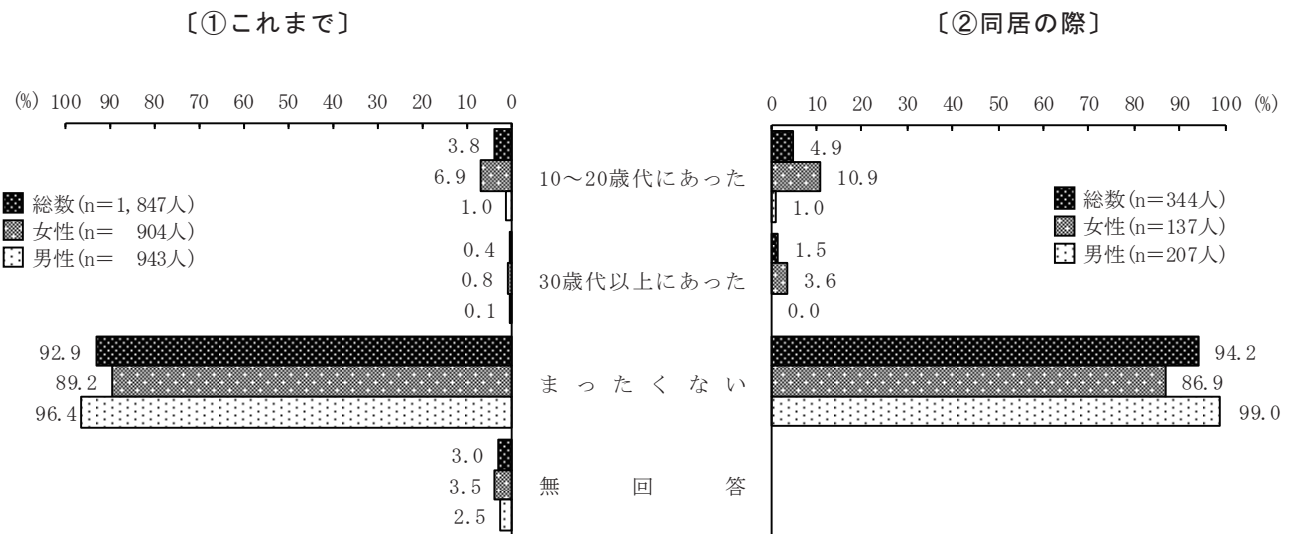
B 心理的攻撃



C 経済的圧迫



D 性的強要



※「②同居の際」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A “身体的暴行”、B “心理的攻撃”、C “経済的圧迫”、D “性的強要” のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

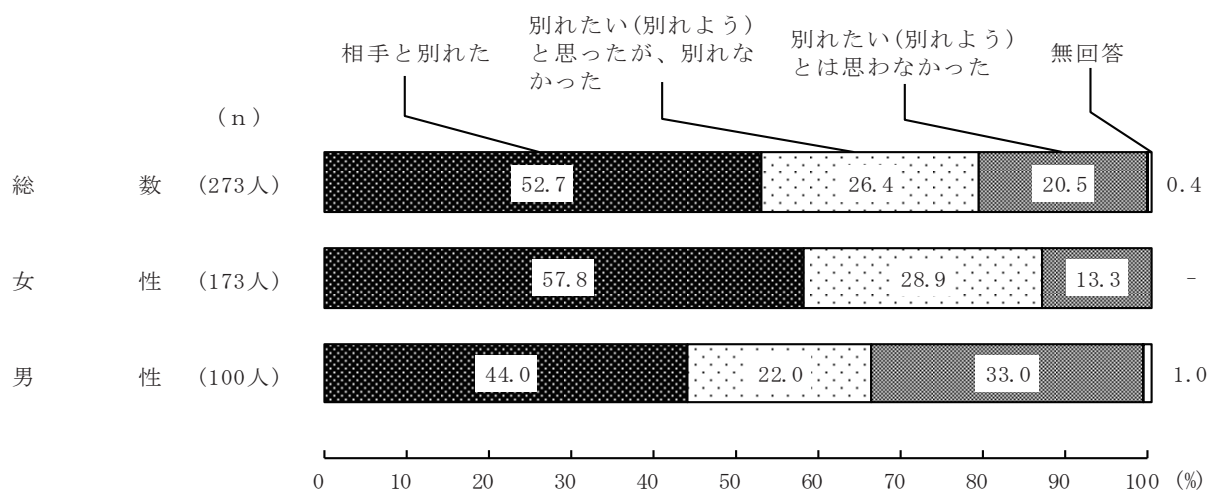
(3) 交際相手から被害を受けたときの行動

交際相手から被害を受けたことがある人（273人）に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのか聞いたところ、「相手と別れた」が52.7%でほぼ半数を占め、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が26.4%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が20.5%となっている。

男女別にみると、女性は「相手と別れた」が57.8%でほぼ半数を占め、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人は13.3%となっている。一方、男性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が22.0%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が33.0%で、結果的に『別れなかった』という人が半数を占めている。（図4-3-1）

問16 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-3-1 交際相手から被害を受けたときの行動

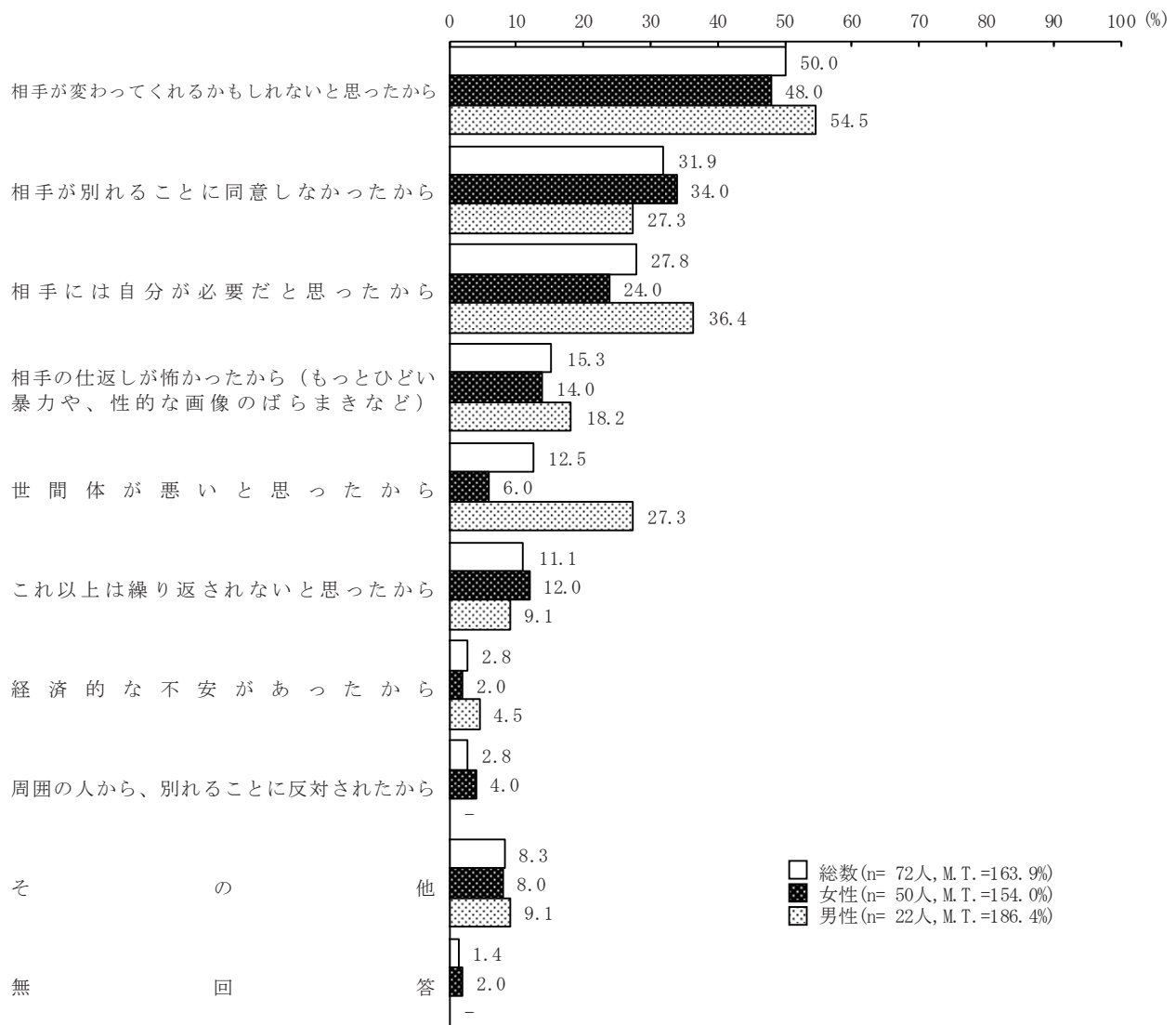


(4) 交際相手と別れなかった理由

交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（72人）に、その理由を聞いたところ、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が50.0%、「相手が別れることに同意しなかったから」が31.9%、「相手には自分が必要だと思ったから」が27.8%などとなっている。（図4-4-1）

問17 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-4-1 交際相手と別れなかった理由（複数回答）

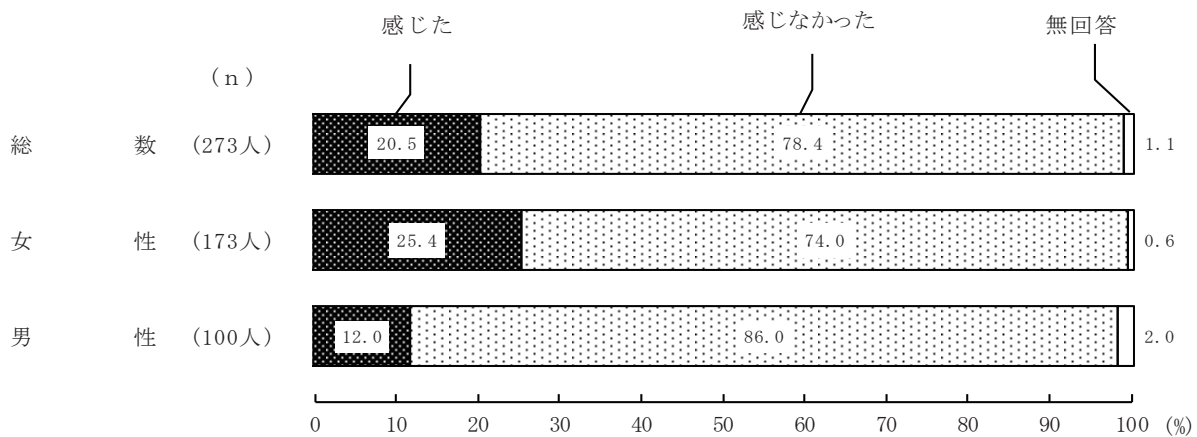


(5) 命の危険を感じた経験

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（273人）に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、「感じた」は20.5%であり、女性が25.4%、男性が12.0%となっている。（図4-5-1）

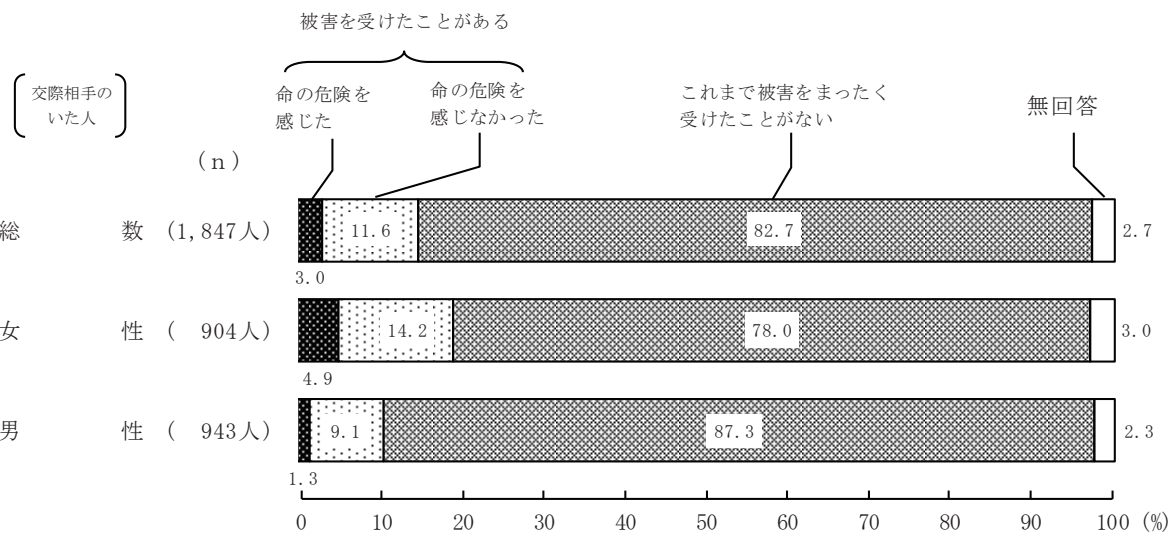
問18 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-5-1 命の危険を感じた経験



交際相手からの被害を受けたことがない人も含め、「交際相手がいる（いる）」という人（1,847人）でみると、命の危険を「感じた」は3.0%であり、女性が4.9%、男性が1.3%となっている。（図4-5-2）

図4-5-2 命の危険を感じた経験（全体ベース）

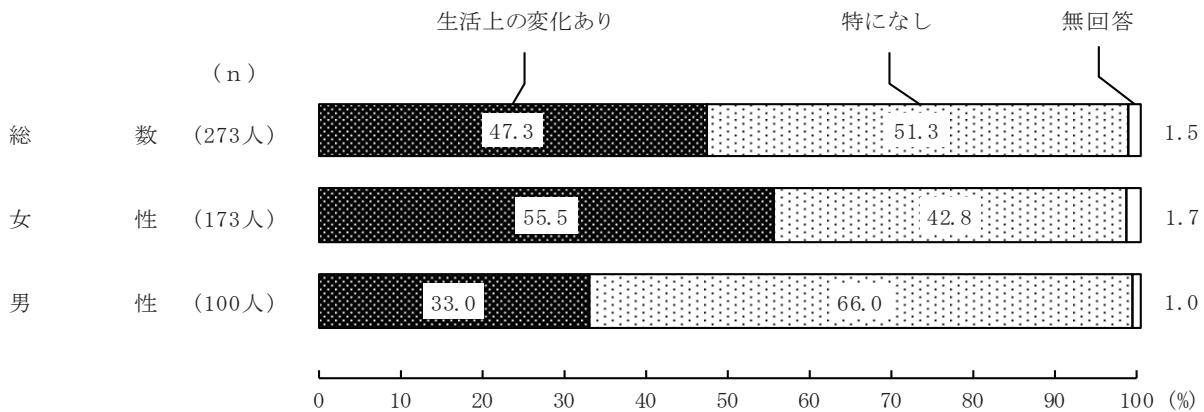


(6) 生活上の変化

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（273人）に、被害によって引き起こされた生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。『生活上の変化があった』は47.3%で、女性が55.5%、男性が33.0%となっている。（図4-6-1）

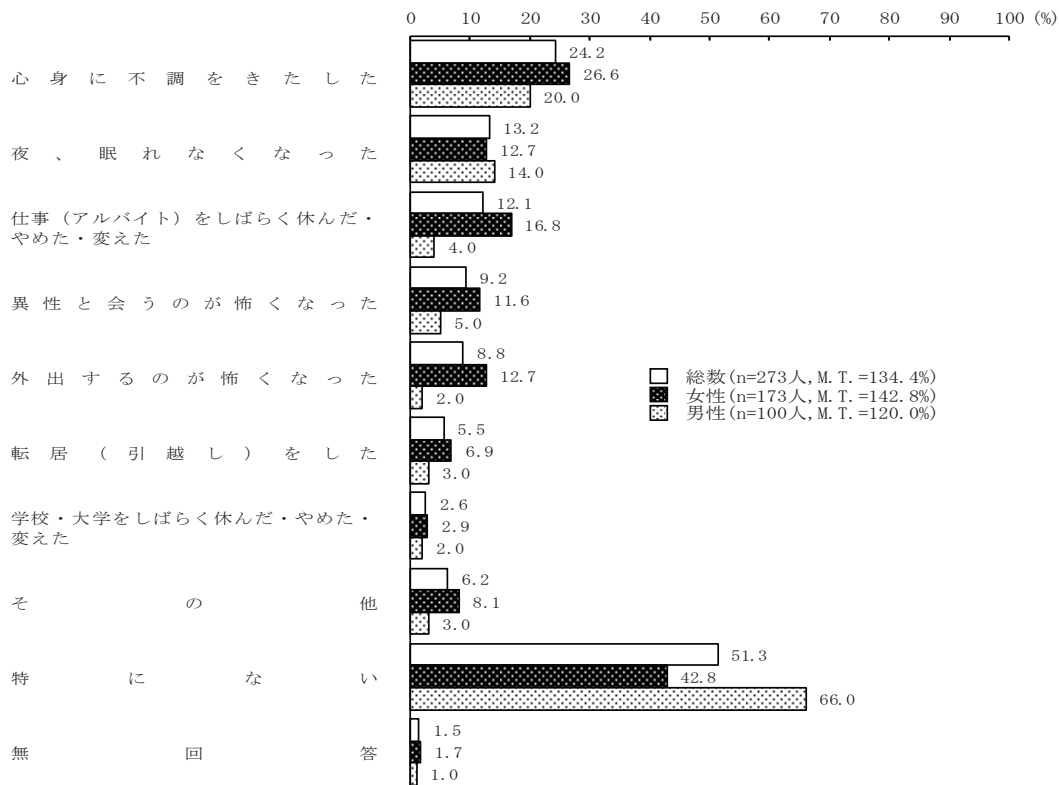
問19 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-6-1 交際相手からの被害による生活上の変化の有無



実際の生活上の変化の内容をみると、男女ともに「心身に不調をきたした」が最も多くなっている。（図4-6-2）

図4-6-2 交際相手からの被害による生活上の変化（複数回答）



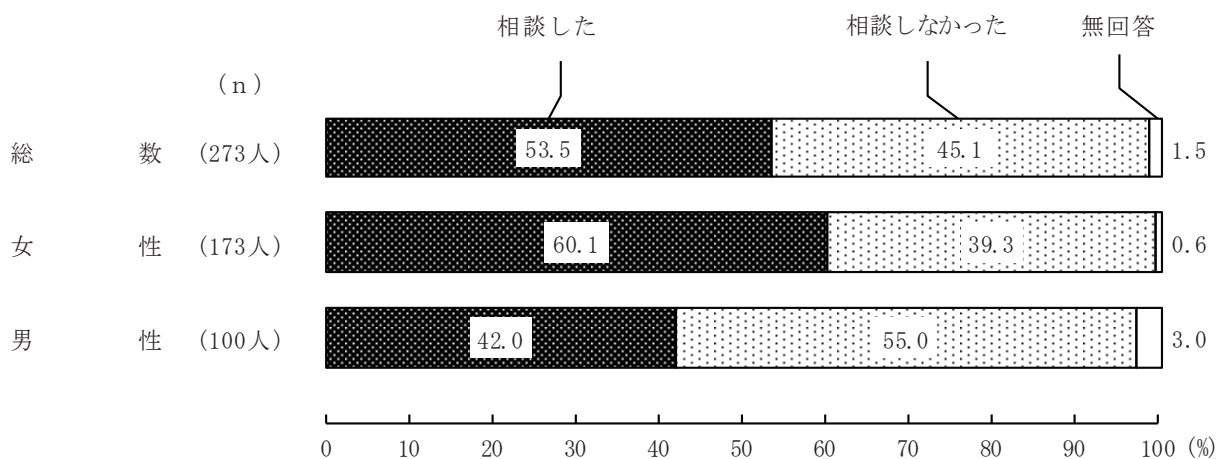
(7) 交際相手からの被害の相談先

交際相手から被害を受けたことがある人（273人）に、被害の状況について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』にまとめた。

『相談した』は53.5%であり、女性が60.1%、男性が42.0%となっている。（図4-7-1）

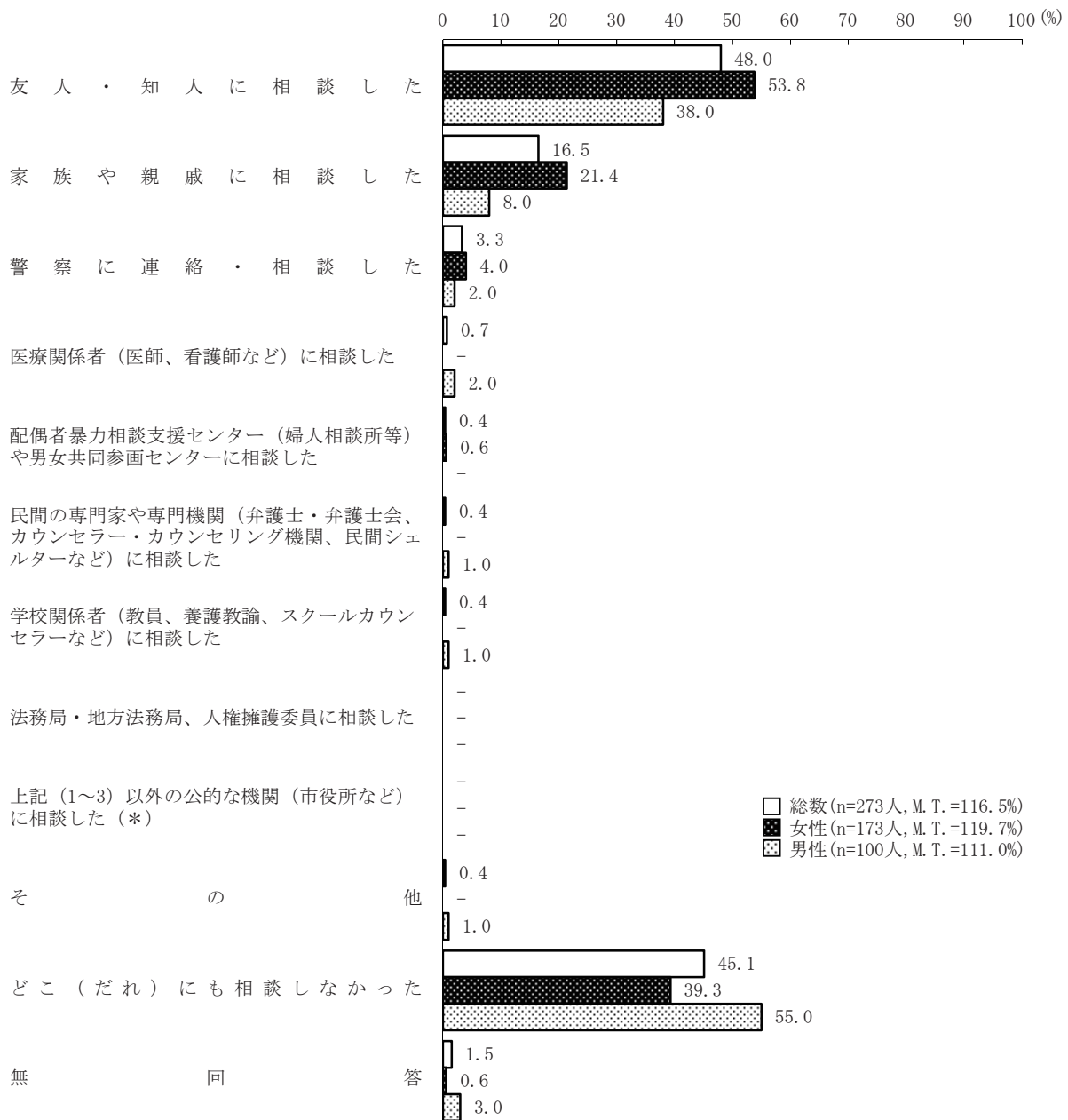
問20 あなたは、交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-7-1 交際相手からの被害の相談の有無



相談先をみると、男女とも「友人・知人に相談した」が48.0%で最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が16.5%となっている。(図4-7-2)

図4-7-2 交際相手からの被害の相談先（複数回答）



* 「上記（1～3）以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。
 1. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談者等）や男女共同参画センター
 2. 警察
 3. 法務局・地方方法務局、人権擁護委員

(8) 相談しなかった理由

交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（123人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が47.2%、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が34.1%、「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」が18.7%などとなっている。

男女別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」となっている。「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性で、「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」は女性で多くあげられている。（図4-8-1）

問21 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-8-1 相談しなかった理由（複数回答）

